

▲▽▲▽東京湾海上交通センター▲▽▲▽ ②

-重大な海難-

大型船や巨大船が一日約 70 隻も行き交い、さらに縦横無尽に小型船が行き交うといわれているのが東京湾。しかし、東京湾での航行安全確保の大きな契機となったのが LPG(液化石油ガス)タンカー「第十雄洋丸」と貨物船「パシフィック・アレス」の衝突事件であった。1974 年 1 月 9 日、ナフサ、液化プロパンなど満載した 4 万 3700 総トンの LPG タンカー「第十雄洋丸」(日本船籍—乗組員 38 人のうち 5 人死亡、7 人負傷)と、鋼材 1 万 4800 トンを積載した 1 万 800 総トンの貨物船「パシフィック・アレス」(リベリア船籍—乗組員 29 人のうち 28 人死亡、1 人負傷)が中ノ瀬航路出口付近で衝突した。

「第十雄洋丸」は積み荷の LPG が発火して瞬時に大火災となった。海上保安庁の巡視船艇などによる必死の救助作業や消火作業が行われたが結局、東京湾での航行の再開のため湾外に曳航されて放たれた。「第十雄洋丸」はその後、黒潮に乗って炎上しながら漂流が続けたが、11 月 27、28 日の 2 日にわたる自衛隊の護衛艦、航空機などによる砲撃で太平洋海底に沈んだ。千葉県の大吠埼灯台から東南東 280 浬の地点であった。

東京湾では特に入湾ラッシュの午前 4~8 時と出湾ラッシュの午後 4~8 時は多数の船が浦賀水道航路に集中するため、常に事故の危険性をはらんでいる。このような危険性を排除し、交通の安全を確保するため「第十雄洋丸」の尊い経験が契機となってセンターが誕生したといっても過言ではない。

・浦賀水道航路

浦賀水道航路は、航路を北航レーン(幅 700m)と南航レーン(幅 700m)に分けた片側一方通行の航路で右側通航となっている。この航路は中ノ瀬航路と同じく全長 50m 以上の船舶はすべてこの航路を航行する義務がある

・中ノ瀬航路

浦賀水道航路から分岐する中ノ瀬航路は北航船のみの一方通行航路となっており、喫水 20m までの船舶が通航できるようになっている

・観音崎灯台付近

観音崎灯台から散策できる場所に、観音崎自然博物館がある。神奈川県立観音崎公園の中に位置しており、豊かな森と東京湾唯一の岩礁海岸に囲まれたエコミュージアム。目の前には横須賀風物百選に選ばれた鴨居港が広がり、釣り人でにぎわっている。釣り好きな人であれば、鴨居港で魚釣りを楽しむこともできるし、県立観音崎公園の海岸園地で、浦賀水道航路を往来する船舶を眺めながら、大物を狙うこともできる